

1 - 1 日本とその周辺の地震活動 (2014 年 5 月～ 10 月)

S seismic Activity in and around Japan (May - October 2014)

気象庁

Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺で M5.0 以上の地震は 61 回、M6.0 以上の地震は 9 回発生した。このうち最大のものは、2014 年 7 月 12 日に福島県沖で発生した M7.0 の地震である。また、2011 年 3 月 11 日に発生した「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」(M9.0, 最大震度 7, 以下「東北地方太平洋沖地震」と呼ぶ) の余震が、前期間に引き続き、岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生した。2014 年 5 月～ 10 月の M5.0 以上の地震の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

また、2000 年 1 月～ 2014 年 10 月の東海から四国にかけての深部低周波地震の震央分布を第 1 図 (c) 及び (d) に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動 (本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2014 年 7 月 8 日 18 時 05 分に胆振地方中東部の深さ 3km で M5.6 の地震 (最大震度 5 弱) が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震により、負傷者 3 人などの被害が生じた (北海道による)。

2014 年 7 月 21 日 03 時 32 分に択捉島南東沖で M6.4 の地震 (最大震度 3) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(2) 東北地方とその周辺の地震活動 (本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2014 年 7 月 12 日 04 時 22 分に福島県沖で M7.0 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は東西方向に張力軸を持つ正断層型である。この地震により津波が発生し、宮城県の石巻市鮎川で 17cm, 福島県の相馬で 15cm など、岩手県から福島県にかけての沿岸で津波を観測した。この地震により、負傷者 1 人の被害が生じた (総務省消防庁による)。

今期間に東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した M5.0 以上の地震は 11 回、M5.5 以上の地震は 6 回であった。

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動 (本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2014 年 5 月 5 日 05 時 18 分に伊豆大島近海の深さ 156km で M6.0 の地震 (最大震度 5 弱) が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生し、発震機構は太平洋プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型であった。この地震により、負傷者 15 人の被害が生じた (総務省消防庁による)。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2014 年 8 月 6 日 01 時 17 分に京都府南部の深さ 14km で M4.3 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震は地殻内で発生し、発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

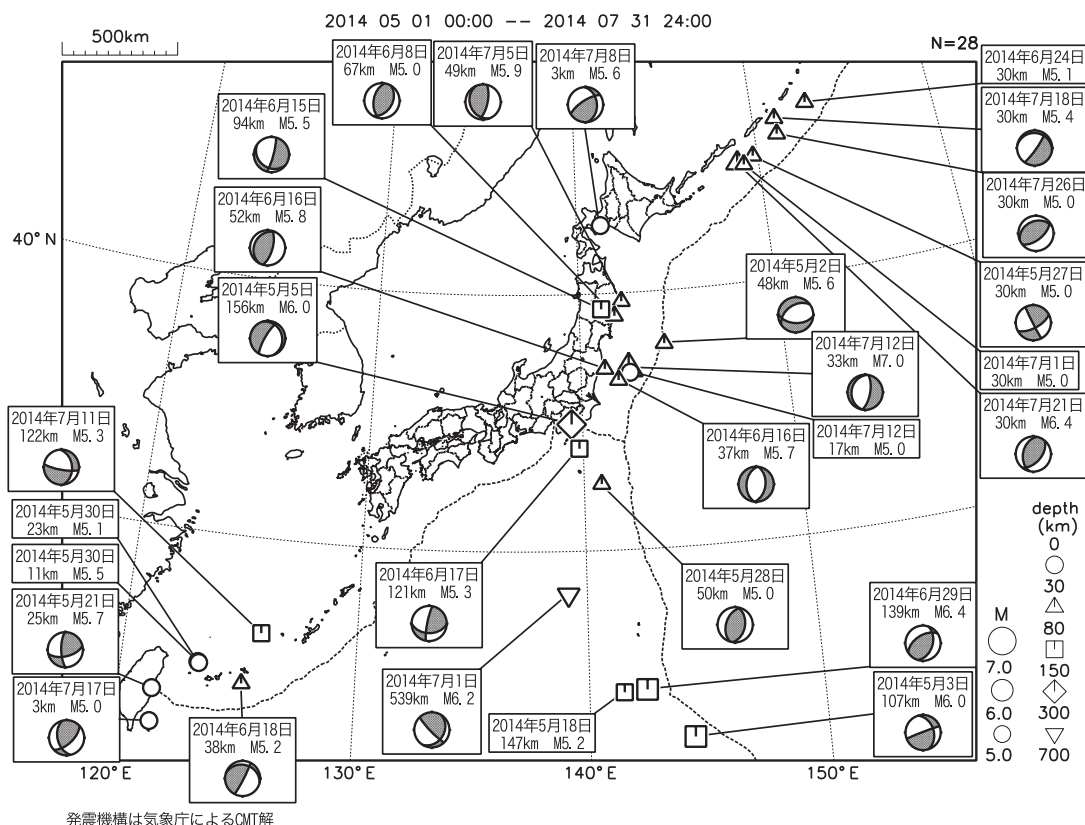
2014 年 8 月 29 日 04 時 14 分に日向灘の深さ 18km で M6.0 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2014 年 9 月 18 日 08 時 18 分に宮古島近海の深さ 50km で M5.2 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT 解）が北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

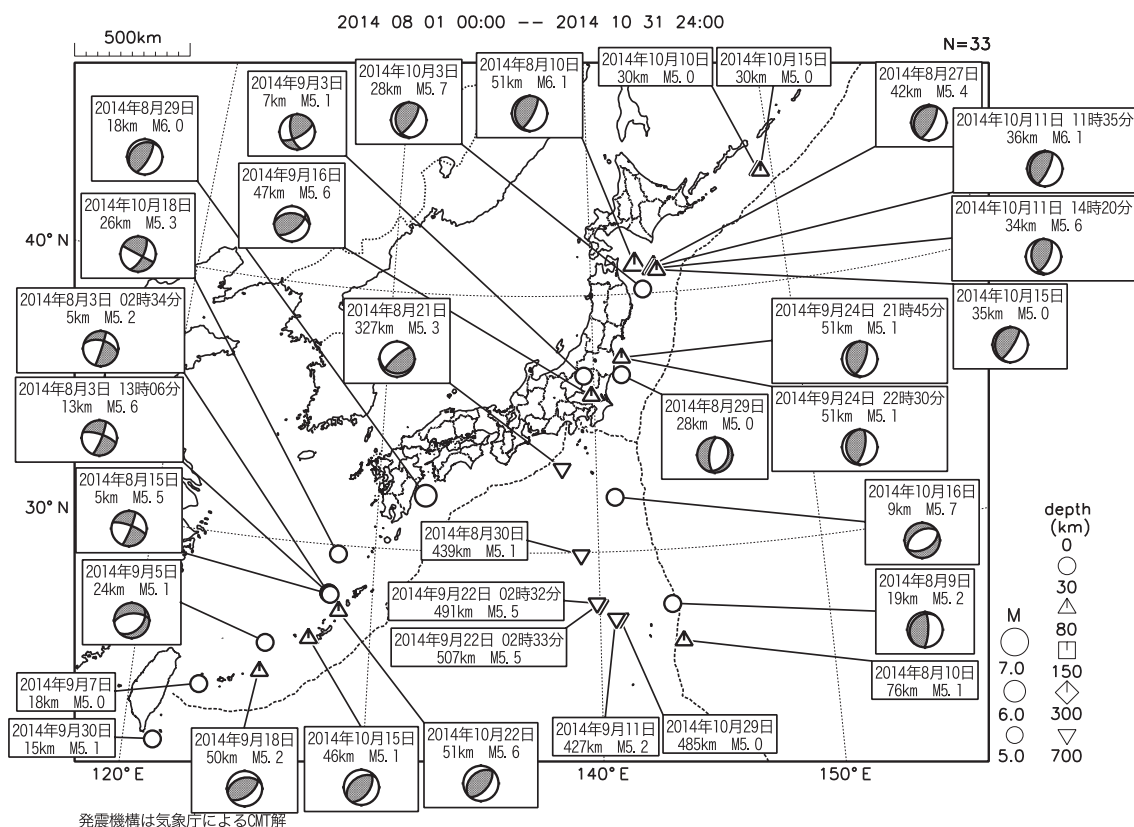
なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、独立行政法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県及び神奈川県温泉地学研究所、気象庁のデータを用いて作成している。また、IRIS の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

日本とその周辺の地震活動（2014年5月～7月、 $M \geq 5.0$ ）



第1図(a) 日本とその周辺の地震活動（2014年5月～7月、 $M \geq 5.0$ 、深さ ≤ 700 km）.
Fig.1(a) Seismic activity in and around Japan (May - July 2014, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).

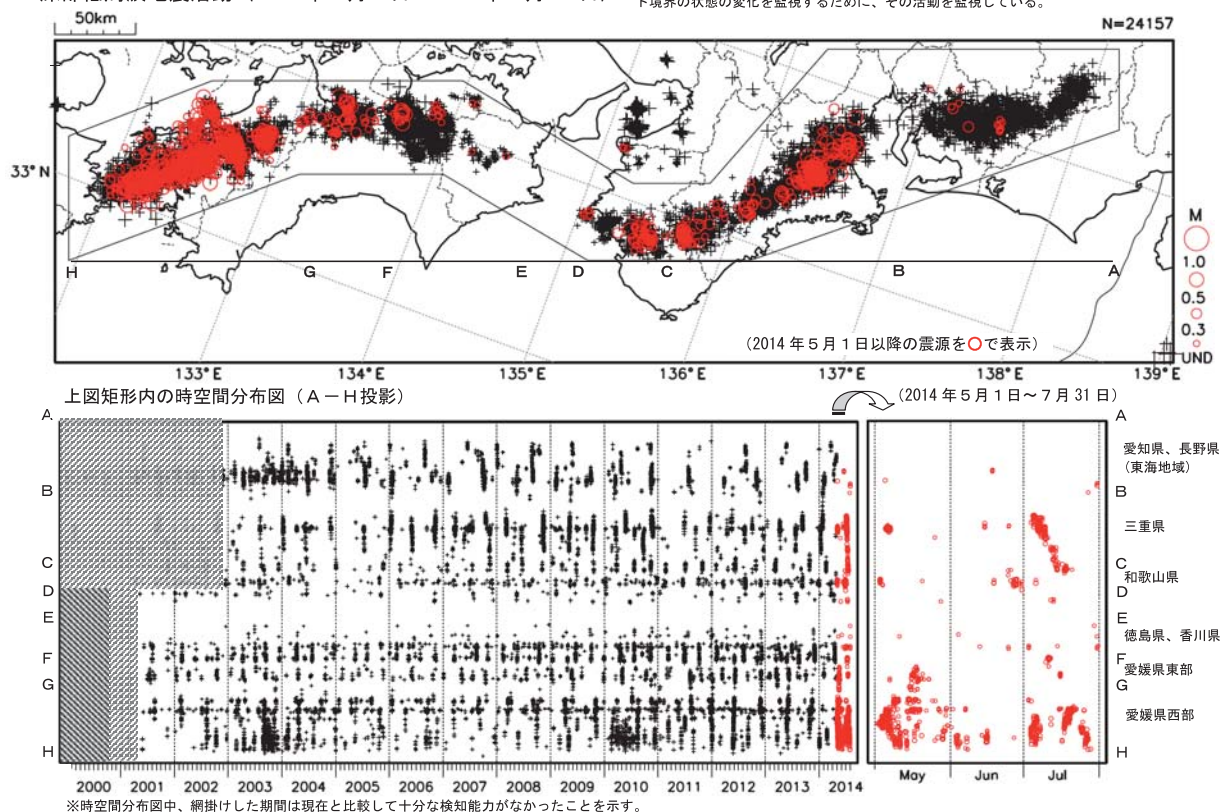
日本とその周辺の地震活動（2014年8月～10月、 $M \geq 5.0$ ）



第1図(b) つづき（2014年8月～10月、 $M \geq 5.0$ 、深さ ≤ 700 km）.
Fig.1(b) Continued (August - October 2014, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).

深部低周波地震活動（2000年1月1日～2014年7月31日）

深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

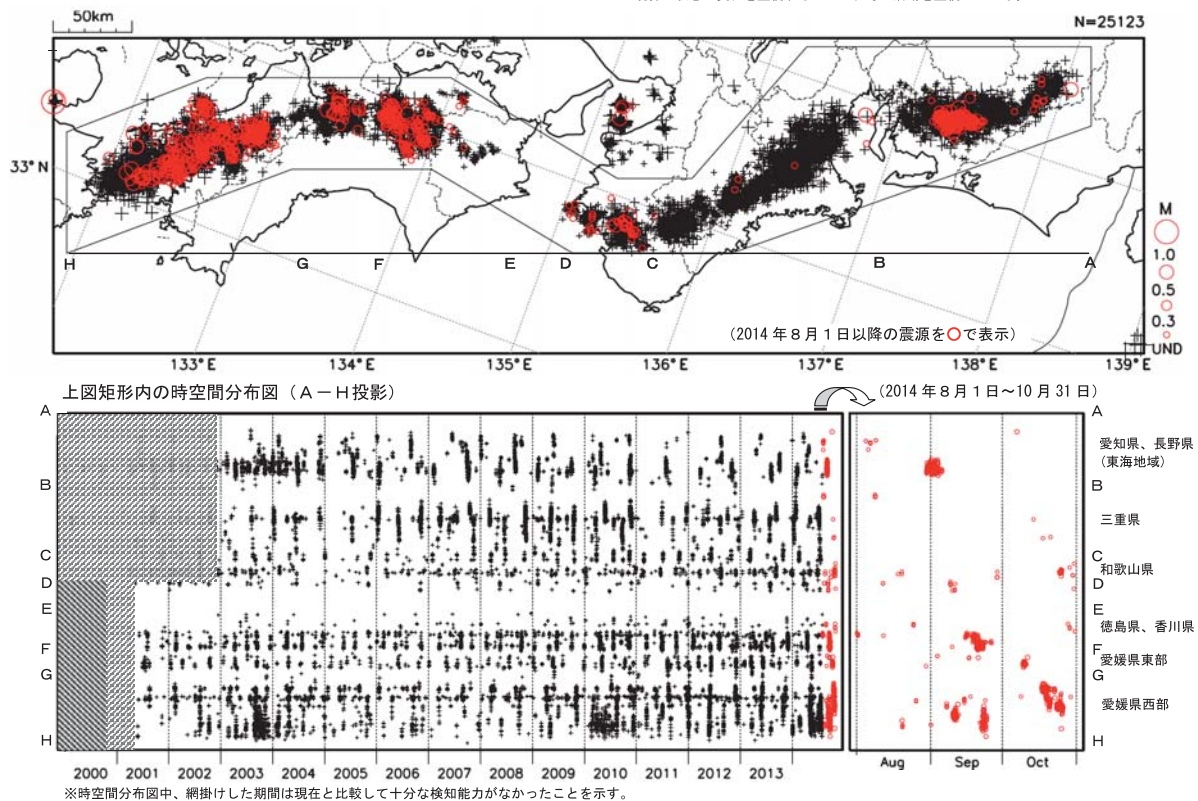


第1図(c) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動（2000年1月～2014年7月，深さ ≤ 60 km）。

Fig.1(c) Seismic activity of Low-Frequency Events from the Tokai region to the Bungo Channel (January 2000 - July 2014, depth ≤ 60 km).

深部低周波地震活動（2000年1月1日～2014年10月31日）

深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



第1図(d) つづき（2000年1月～2014年10月，深さ ≤ 60 km）。

Fig.1(d) Continued (January 2000 - October 2014, depth ≤ 60 km).